

二番茶期のチャもち病に対する 銅水和剤を用いた防除技術

八女分場

1 背景、目的

チャもち病は新芽に発生後、新葉に水疱状の大きな白色の病斑を形成し、収量と品質を低下させ、特に中山間地の二番茶で問題となっています（図1）。特に、有機栽培や減農薬栽培などでは化学合成農薬の使用が制限されるため、本病に登録のある非化学合成農薬の銅水和剤を使用しますが、現行の散布時期（萌芽期から0.5葉期）では効果が不安定です。

そこで、二番茶期のチャもち病に対し効果の高い散布時期と各種銅水和剤の防除効果を明らかにしました。

2 成果の内容、特徴

1) 二番茶萌芽前（一番茶摘採20日後）に銅水和剤を散布することで、二番茶期のチャもち病の発生を抑制できます（図2）。

2) 一般的に使用されている銅水和剤は、二番茶萌芽前の1回散布でいずれもチャもち病に対し高い防除効果を示します（表1）。

3 主要なデータ・画像など



図1 チャもち病の病斑

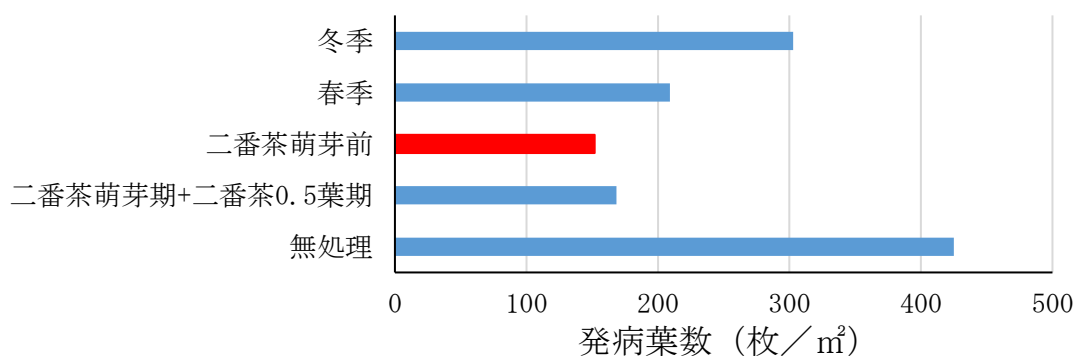


図2 二番茶期のチャもち病に対する銅水和剤の散布時期別防除効果

- 注) 1. 試験は八女市矢部村(標高約370m)のチャ園で実施した。
 2. 冬季：平成29年12月1日にコサイド3000(1,000倍。以下同じ)、
 春季：平成30年3月27日にZボルドー水和剤(400倍。以下同じ)、
 二番茶萌芽前：5月29日(一番茶摘採20日後)にZボルドー水和剤、
 二番茶萌芽期+二番茶0.5葉：6月4日、6月12日にいずれもコサイド3000。
 いずれも200L/10a散布した。

表1 チャもち病に対する各種銅水和剤の二番茶萌芽前散布による防除効果

供試薬剤	濃度(倍)	発病葉数(枚/m ²)
コサイド3000	1,000	17.8
Zボルドー水和剤	400	18.7
ドイツボルドーA	500	18.3
ムッシュボルドーDF	1,000	34.4
無処理		1340.7

注) 平成29年5月30日に200L/10a散布し、6月27日に調査した。